

年頭の挨拶

島根県神社庁長

角 河 和 幸



新しき令和の

御代の年頭に当たり謹んで聖寿の萬歳を言祝ぎ、ご皇室の弥栄をご祈念申上げる次第であります。又県内神社のご社頭の益々のご隆昌と神社関係者の皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

昨年の五月、元号が平成から令和と改元され新しい御代を迎えました。十月には「即位礼正殿の儀」、十一月には「大嘗祭」が執行され、すべての即位の御儀が恙無なく執りおこなわれました事、誠に慶賀の至りであり、お祝い申し上げます。こうした即位礼の諸儀式を通じ皇室の伝統と天皇を戴く日本の国柄に思いを致し、これらが世界に誇れる歴史と伝統である事を改めて氏子崇敬者に教化してまいりたく存じます。

本年は日本書記編纂千三百年の年を迎

えます。この日本書紀は神代の時代から持統天皇までが記載された日本の歴史書であります。天皇陛下は皇祖以来御歴代の大御心を受け継がれ、第一二六代の天皇としてご即位遊ばされました。

ご即位の際のお言葉の中に「ここに、国民の幸せと世界の平和を常に願ひ、国民に寄り添いながら憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。」と述べられたことは、誠に畏れ多くも有難き極みであります。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、第六十二回神宮式年遷宮から早五年が経過致しました。今尚国民の参宮の気運が維持されておりますことは誠にご同慶の至りであります。此の令和の新しき御代替わりの節目に当たり、今後とも神宮大麻の頒布に、なお一層ご協力戴きますようお願い申し上げます。

さて、皆様方には平素より奉務神社の神明奉仕はもとより、神社本庁を始め関係諸団体が推進いたします諸施策に格別なるご理解とご協力を戴いておりますことと衷心より御礼申し上げます。またこの度のご即位に対しての当庁の記念事業と

して記念綬並懸垂幕の頒布を致しましたところ、多大なご協力を賜りましたこと感謝致します。また島根県神社関係職員録はこの度の特別昇階・昇級が発令された後に印刷・配付させて戴くことになりましたので、ご了承下さいます様お願い致します。

結びにあたり、新しき令和の御代を迎え、皆様方には豊かで平和な良き年となりますよう祈念致し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

.....

島根県神社総代会長 木佐明宏



明けましておめでとうございます。
令和二年庚子年

の新春を迎え、ご皇室の弥栄と神宮、

県内神社のご盛昌、更に皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

平素より氏神様、崇敬神社の護持運営はもとより、島根県神社庁並びに島根県神社総代会の諸施策の事業推進に格別のご協力を賜っていますことに厚く御礼申し上げます。

畏くも天皇陛下におかせられましたは、昨年五月上皇陛下のご譲位により、一二六代の御位を踐まれ、その後「即位礼正殿の儀」「大嘗祭」をはじめとする御代替りの関連諸行事を滞りなく斎行あそばされましたことは誠に有り難く、慶賀に堪えない次第であります。

御代替りに際し、国民も挙って奉祝の誠を捧げるとともに、我が国の麗しい精神文化が継承されてきた意義を将来に伝える責務を再認識し、尚一層皇室敬慕の念の涵養に努めなければならぬと心を新たにします次第です。

上皇陛下におかせられましたは、三十年あまりの平成の御代を恙なく知ろしめされ、天皇陛下に御譲位あそばされました。多くの自然災害が発生する中、被災地を行幸あそばされるご様子を何度も拝し、被災者に御心をお寄せになられるお姿は、皇室を仰ぐ日本の国柄を深く胸に刻むことができ、改めて上皇陛下の御代に感謝申し上げ、引き続き国民をお守りいただきます存じます。

昨年を振り返りますと、八月に九州北部で局地的に記録豪雨が発生し、九月には強い勢力の台風十五号が上陸、千葉県

南部を中心に被害をもたらしました。更に十月には伊豆半島に上陸した台風十九号は、関東地方、東北地方を襲い、各地で河川の氾濫や土砂、暴風などによる甚大な被害をもたらし、神社関係にも多くの被害が出るなど自然災害が頻発しました。これらの大災害により犠牲となられた方々に対し、改めて衷心より哀悼の誠を捧げます。また、被害を受けられた方を始め、ご関係の皆様には慎んでお見舞い申し上げますとともに、被災地と被災された皆様の一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

今年は愈々オリンピック・パラリンピックイヤーとなり、昭和三十九年以来実に五十六年振り、国民が待ち望む東京開催です。

世界各地から訪れる選手、お客様を大和ごころのおもてなしで、お迎えし、歓迎の意を尽したく存じます。

さて、本県神社庁総代会は本年設立五十周年の節目を迎えます。我々は、設立以来県神社庁と表裏一体となつてその施策に協力し、神社の興隆は固より、我が国の伝統の恢復と道統の護持のため心血を注がれた先人達のご苦勞を忘れるこ

と無く、その高邁な精神を次世代に継承発展させてゆかなければなりません。設立五十周年記念事業が万事滞り無く遂行できるよう関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、我が国は人口減少社会の到来を迎え、地域共同体の崩壊も懸念されているところです。本県も例外ではなく、県内神社を取り巻く環境は、急激な少子高齢化や過疎化の影響を受け、地域の神社を護持運営するうえで多くの課題に直面しています。古えより地域の精神的な拠り所として崇敬されてきた神社の護持発展に尽くするため、皆様方には氏神様や各ご家庭のお祭りに率先してご奉仕戴きたく、又後継者の育成とご指導を切にお願い申し上げます。

おわりに、本年が平和で稔り多き一年であることをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶と致します。



月	日	曜	主催	行事	場所
6	22	月	神 政 連 県 本 部	代議員会	神社庁小会議室
	23	火	島 根 県 神 社 庁	協議員会	神社庁大会議室
	28	日	日本文化興隆財団	全国神社検定	神社庁研修室
	未定		神 社 庁 研 修 所	研修所講師会議	神社庁小会議室
			神 宮	評議員会	神宮会館
			中国地区氏青神青	中国地区氏青神青合同研修会	岡山県
7	2	木	山 口 県 神 社 庁	山口県神社関係者大会	山口県
	10	金	県 神 社 総 代 会	総代会監査会	神社庁役員室
			〃	代議員会	神社庁大会議室
			日 本 会 議 島 根	理事会	〃
			島 根 県 神 社 庁	関係者大会打合せ	神社庁小会議室
	未定		〃	総務委員会（県規程表彰審査）	神社庁役員室
			〃	広報委員会	神社庁小会議室
			〃	国民精神昂揚研修会（教化委員会総集会）	神社庁大会議室
8	2(日)～29(土)		〃	階位検定講習会	神社庁研修室
	20	木	〃	監査会	神社庁役員室
			〃	役員会	〃
	27	木	広 島 県 神 社 庁	広島県神社関係者大会	広島県
			中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修（甲）	岡山県
	未定		〃	中国地区教化会議	〃
9	3	木	島 根 県 神 社 庁	島根県神社関係者大会	石見地区
	9	水	全 国 神 社 総 代 会	全国神社総代会大会	広島県
	17	木	神 宮	神宮大麻暦頒布始祭	内宮神楽殿
	(未定)		神 社 本 庁	神宮大麻頒布秋季全国推進会議	神宮会館
			〃	神宮崇敬会事務局長会	〃
			〃	神社庁長会	神宮司庁
			〃	「皇室」普及委員会	〃
	24	木	島 根 県 神 社 庁	正副庁長会	神社庁役員室
	25	金	〃	神宮大麻暦頒布始奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
			〃	支部長会	神社庁小会議室
			〃	総務委員会（本庁表彰審査）	神社庁役員室
			29	火	全 国 敬 神 婦 人 会
	未定		県 氏 青 協	島根県氏子青年協議会定期大会	出雲市大社町
10	15	木	神 宮	初穂曳	神宮
	未定		神 社 本 庁	評議員会	神社本庁
			島 根 県 神 社 庁	神宮大麻発送	各支部へ
			〃	広報委員会	神社庁小会議室
11	9(月)～10(火)		中国地区神社庁	中国地区職員研修	島根県
	11	水	島 根 県 神 社 庁	祭祀委員会	神社庁小会議室
	12	木	〃	例祭・新嘗祭（祭員→庁長・祭祀委員・ 神青・女子神、奏楽→出雲地区）	神社庁神殿
	18	水	〃	総務委員会	神社庁役員室
	20	金	〃	教化委員会	〃
	12	8	火	〃	正副庁長会
9		水	〃	役員会	神社庁役員室
			〃	身分選考委員会	〃
			〃	階位検定講習会企画会議	〃
28		月	〃	御用納祭	神社庁神殿
未定		〃	広報委員会	神社庁小会議室	
		県 敬 神 婦 人 会	総会	未定	

令和2年 島根県神社庁 年間行事予定表

月	日	曜	主催	行事	場所
1	6	月	島根県神社庁	御用始祭	神社庁神殿
	25	土	神社庁研修所	支部祭式助教研修会	神社庁研修室
	27	月	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
			〃	役員会	〃
			〃	神社庁互礼会	武志山荘
	28	火	〃	新年祭(祭員・奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
神社庁研修所			研修所講師会議	神社庁役員室	
2	11	火	日本会議島根	建国記念の日奉祝行事	松江護国神社
	15	土	県神青協	竹島領土平安祈願祭	神社庁神殿
	15(土)～16(日)		神社庁研修所	初任神職研修(前期)	神社庁研修室
	22	土	島根県	竹島の日記念式典	島根県民会館
	25	火	島根県神社庁	祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
			〃	支部長会	神社庁小会議室
27(木)～29(土)		県教化委員会出雲部会	出雲部会参宮(第1班)	—	
3	2(月)～3(火)		神社本庁	全国教化会議	神社本庁
	5	木	神宮	神宮大麻暦頒布終了祭	内宮神楽殿
			神社本庁	神宮大麻暦布春季全国推進会議	神宮会館
	5(木)～7(土)		県教化委員会出雲部会	出雲部会参宮(第2班)	—
	17	火	大社國學館	卒業式	大社國學館
			神社庁長懇話会	神社庁長懇話会	明治記念館
	18	水	神社本庁	神社庁長会	神社本庁
			〃	「皇室」普及委員会	〃
26(木)～27(金)		中国地区神社庁	中国地区神社庁連絡会議	岡山県	
4	11(土)～12(日)		神社庁研修所	初任神職研修(後期)	神社庁研修室
	16	木	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	17	金	大社國學館	入学式	大社國學館
	20(月)～21(火)		全国神社総代会	総代会幹部研修会	北海道函館市
	未定		岡山県神社庁	岡山県神社関係者大会	岡山県
			全国敬神婦人会	役員会・常任委員会	未定
5	11(月)～15(金)		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(乙)	広島県
	14	木	出雲大社	出雲大社例大祭	出雲大社
	19	火	全国神社総代会	代議員会	神社本庁
	20	水	神社本庁	表彰式	明治記念館
			島根県神社庁 (院友神職会)	在京院友神職・学生懇親会	東京
	21(木)～22(金)		神社本庁	評議員会	神社本庁
	22	金	〃	班幣式・神社庁長会	〃
	28(木)～29(金)		中国地区神社庁	中国地区社頭講話研修会	島根県
	31	日	島根県	全国植樹祭	大田市
6	4	木	島根県神社庁	総務委員会	神社庁役員室
	9	火	〃	教化委員会	〃
	10	水	神政連本部	神政連50周年記念式典	ホテルニューオータニ
	11	木	〃	中央委員会	神社本庁
			島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	12	金	〃	役員会	〃
			〃	身分選考委員会	〃
	17(木)～18(木)		神社本庁	事務担当者会	神社本庁

支部祭式助教研修会

【主催】

島根県神社庁研修所

【期 日】

令和二年一月二十五日(土) 午前九時より受付

【会 場】

『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【目 的】

支部祭式助教の研鑽と祭式指導者養成をはかるため。

【参加資格】

支部祭式助教、その他今後祭式指導者として適任と

支部長が認め推薦する者。

【募集人員】

二十名程度予定

各支部原則一名の参加を奨励します。

※支部二名以上の参加を希望の場合、申込締切時点での参加状況により、参加可能であればご連絡致します。(二名以上参加希望の場合は、優先順位を記入願います)

【申込方法】

研修申込書

令和二年一月十七日(金)までに神社庁必着でお願いします。

【提出書類】

記入願います。

【必要経費】

二、〇〇〇円

※別途教本代申し込みによる教科書代金。

※同封振込用紙にて申込時に納付下さい。

研修会開催までに左記の通り準備して下さい。

【準備品】

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白緒草履一足(下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

教科書

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。

○平成二十二年改訂版神社祭式同行事作法解説

(平成二十四年改訂四版)

一、九八〇円

※平成二十二年改訂版以前のものは内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。

○平成二十年改訂版神社祭祀関係規程

(平成二十四年改訂五版)

一、一〇〇円

※平成二十年改訂版以前のものは内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。

【日 程】

日程	時刻
受付・改服	9:30
開講式	
祭式研修 (基本作法)	10:20
昼食・休憩	12:30
祭式研修 (座礼作法)	13:30
休 憩	15:30
祭式研修 (立礼作法)	15:40
閉講式	17:50
解 散	

【その他】

・午前中は『基本作法』について、午後は『殿上での立礼作法』について研修いたしますので、教科書等をご参照の上、事前学習をお願いします。

・不明な点は神社庁までご連絡下さい。

島根県神社庁 〒六九九一〇七〇一

所在地 島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

TEL 〇八五三一五三一二一四九
FAX 〇八五三一五三一二五八二

初任神職研修

【主催】

島根県神社庁研修所

【期 日】 (前期) 令和二年二月十五日(土) ～十六日(日)
(後期) 令和二年四月十一日(土) ～十二日(日)

※四日間研修を右二日間ずつ分割実施する。

【会場】

『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地
神社本庁研修規程に基づき、新たに任用された神職に
対し、神社本庁・神社庁の組織を明確にせしめ、本庁包
括下の神職としての自覚と連帯感を養う。

神職任用後五年以内に修了しなければならない必修研
修です。

※参考神社本庁総合研究所研修規程施行細則第二条三号

【参加資格】

階位を有し、昭和五十年七月一日以降に宮司(代務者)・
祢宜・権祢宜・主典などに任用された者

二十名程度予定

【募集人員】

【申込方法】

○島根県神社庁研修所入所申込書

○履歴書

○書籍申込書
※申込内容は各自で把握出来るようにコピー等、控え
ておいて下さい。

○角三封筒(B5サイズの封筒)

※一四〇円切手を貼付し、本人の住所・氏名を記入し
て下さい。

【申込締切】

令和二年一月十六日(木) までに神社庁必着でお願い
します。

【入所許可】

入所申込者に対して書類選考を行い、入所許可を通知
します。

※なお、入所許可の通知に併せて『研修生名簿』、『研修

【必要経費】

生活の葉』を送付します。

三〇、〇〇〇円

教科書代申し込みによる教科書代金

研修開催までに左記の通り準備して下さい。

【準備品】

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○寝衣用白衣(※清潔な
作務衣でも可)

○笏(女子はボンボリ) ○白緒草履二足(上履・下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます

○国語辞典 ○古語辞典 ○漢和辞典(電子辞書可)

当研修は合宿制につき、左記期日の宿泊については神
社庁で指定する宿泊施設に合宿して戴きます。なお、

前日宿泊については神社庁では斡旋しません。各自で
確保願います。

宿泊の詳細については、入所許可通知の際に改めて通
知します。

合宿期日二月十五日(土) 及び四月十一日(土)

【研修科目】

【合宿期日】

【研修科目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

【研 修 科 目】

【時 限】

島根県神社庁 〒六九九一〇七〇一

所在地 島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

TEL ○八五三一五三一 二一四九

FAX ○八五三一五三一 二五八二

令和二年・皇紀二六八〇年 子年生まれの方々 年頭の所感

大田市長久町

八幡宮 宮司

山本 卓也

(昭和三十五年生)



明けてましておめでとうございます。

令和二年庚子歳の『令和新時代』の初めての年頭にあたり、皇室の弥栄をお祈り申しあげ、皆様のご繁栄ご発展をお祈りいたします。

昨年は、新帝陛下への皇位継承が滞りなく行われ、令和の御代を迎えました。

本年は、天皇后両陛下におかせられましては、五月三十一日に大田市の三瓶山で開催されます第七十一回全国植樹祭ご臨席のため、本県に行幸啓遊ばされます。このような記念すべき年を還暦として迎えることができ感慨もひとしおです。

思いおこせば、昭和四十六年四月に、同

じ大田市の三瓶山において、昭和天皇后両陛下をお迎えし第二十二回全国植樹祭が開催されました。私は当時小学五年生でしたが、当日は氏神様の例大祭の日でしたので、拝殿から空を見上げて、晴天の中で「植樹祭」も「例大祭」もできてよかったと思つたことを、記憶しています。

あれから、半世紀近くが経過し、神社を取り巻く環境も大きく変化し、過疎化・少子高齢化も相まって、祭祀の継承も困難な状況となっています。

自分が生まれた年の干支に戻る「還暦」に当たり、初心に戻って、氏子・崇敬者の皆さんと協力しながら、次の時代に神社を引き継いで行くため、神明奉仕に誠心誠意努めてまいりたいと思います。

.....

八王子神社 神宣

榊原 二郎

(昭和五十九年生)



新年、明けておめでとうございます。自分のような、普段は一般職に就いている人間に、こ

のようなご挨拶の場を設けて頂き、とてもありがたく思います。

年が明け、新しい令和の時代が本格的に始まりますが、高齢化と人口減少という、地方ならではの問題は、引き続き私たちの頭を悩ませています。

私の村のお祭りでも、イターンと呼ばれる、県外から隠岐の島に移住してくれた人達に、参加してもらう事などをしています。

これからは、隠岐の島の各集落だけではなく、島全体に参加を呼びかけていき、島民の皆で各々のお祭りに協力して、この令和の時代も存続できるように、そして、令和の次の新しい時代にも、伝統が継承できるように努めていきたいと考えています。

.....

出雲市斐川町

立虫神社 神宣

錦田 寛史

(平成八年生)

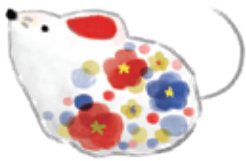


まずは、天皇陛下のご即位をお祝い申し上げます。御代替わりに伴い、新しい元号は「令和」となりました。この元号の名称やその意味解釈

を巡っては賛否が分かれているようですが、私はこの名称を「和せ令^しむ」と考え「平和(な世)に(皆で)させる」という「新しい時代への決意」を示していると解釈しました。平和な世の中の実現のためには、話し合いが必要です。記紀神話においては、神々が天の安の河原に集まって相談をしたとされており、このことをもって「日本型民主主義」の原点である、と語る言説も見られます。

「神々が集まって相談事をする」と言えば、我々鳥根の神職が思ひ描くのは、神在月の出雲ではないでしょうか。今もなお、その信仰と習俗を、形を変えながら伝えていきます。ひよつとすると日本型民主主義を、時空を超え、神代から現代まで繋いでいるのは「出雲」なのかもしれません。出雲の神職としては、身の引き締まる思いです。

新たな元号の名称の随^{まじ}に、諸先輩方と共に歩んでまいれる所存です。



御大典奉祝 全国神社関係者大会報告

天皇陛下御即位を奉祝し 国民祭典を挙行

神社庁 主事 村尾茂樹

十一月九日、皇居外苑や皇居前広場などを会場として、天皇陛下御即位奉祝委員会(会長 三村明夫)と天皇陛下御即位奉祝国会議員連盟(会長 伊吹文明)、公益財団法人日本文化興隆財団(理事長 田中恆清)が主催し、「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」が挙行された。この行事は、御即位をお祝いする全国の奉祝行事の中でも最大の規模で、主催者発表では約七万人が参列。鳥根県神社庁からは忌部正孝副庁長、篠田範雅副庁長以下六名、日本会議鳥根からは倉井毅会長以下二名が参列した。秋晴の下、午後一時半からの第一部「奉祝まつり」では、皇居外苑と内堀通りにおいて都内神社の神輿が出御し通りを練り進んだほか、秋田の竿燈まつり・鳥取のしゃ

んしゃん傘踊りなどの全国の著名な芸能行列、さらには警視庁音楽隊などのパレードが賑やかに行われた。即位を祝う華やかな行列を一目見ようと、沿道には多くの観覧者が訪れ、まさに祝賀ムード一色となった。

次に夕刻午後五時十分からの、皇居二重橋前特設舞台及び皇居前広場を会場とする第二部「祝賀式典」には、政財界をはじめ文化界・スポーツ界・芸能界の代表や、各都道府県の奉祝行事の推進団体関係者、一般応募者など約三万名が参列。俳優の谷原章介氏とフリー

アナウンサーの有働由美子氏の司会で式典は進み、各界からの祝辞が述べられるとともに、天皇皇后両陛下がこれまで国民とともに歩んでこられたご様子が大型スクリーンで上映された。

そして、午後



天皇陛下御即位奉祝委員会

六時過ぎ、天皇后両陛下には参列者の祝賀にお応えになるとのことで、皇居正門前にお出ましになられた。より静寂な空気が流れるなか、主催者である奉祝委員会の三村会長と安倍晋三内閣総理大臣が祝辞を読み上げ、この行事にあわせてつくられた奉祝曲「Ray of Water」が奉呈されると、畏くも陛下より国民の祝賀に対するお言葉を賜った。

参列者一同、ありがたさに感極まる中、奉祝議員連盟の伊吹会長の先導で聖寿万歳の三唱となり、参列者一同で提灯と国旗小旗を手にもった。

天皇后両陛下が御退出になられても、提灯の暖かい光が皇居前広場を埋め尽くし、令和の御代の始まりをお祝いした。



天皇陛下御即位奉祝委員会

神社庁 録事 宮里 慎一郎

「御大典奉祝全国神社関係者大会」が令和元年十二月五日(木)東京「明治神宮会館」を会場に開催され、全国各地より神職・氏子総代等、神社関係者千三百人が参加した。

当県からは角河庁長以下二十一名の参加で、四日より上京し、夕刻より懇親会を開催した。

翌五日は朝から皇居へ向かい、参入門である坂下門にて受付を行い、本年七月下旬から三ヶ月余りを掛け東御苑に設営された「大嘗宮」を拝観し、その後は昭和天皇の御発意により造成された「二の丸雑木林」を抜け大手門より退出した。

当日は天候にも恵まれ相当の混雑が予測されたが、待ち時間も殆ど無く非常にスムーズに拝観することができ、古代より連続と続く、天皇一代一度の大嘗祭に参加者一同思いを馳せた。

その後は皇居近くにて昼食を済ませ、会場である明治神宮会館へ向かった。到着後は先ず参加者全員で、清々しい参道を進み明治神宮を参拝し、その後本年十月二十六

日に開館した「明治神宮ミュージアム」において、明治二十二年の憲法発布式の日に明治天皇・昭憲皇太后がご乗りになった「六頭曳儀装車」や、明治天皇がご使用になった「御鉛筆」、イタリア人画家、エドアルド・キヨッソーネの描いた「御尊影」等の御宝物を拝観した。

午後二時より始まった奉祝式典では、国歌斉唱に始まり、鷹司尚武神社本庁統理による式辞、小松揮世久神宮大宮司、三村明夫全国神社総代会長、内田文博神道政治連盟会長、稲田朋美神道政治連盟国会議員懇談会事務局長による来賓祝辞と続き、次に



大会宣言案を田中恆清神社本庁総長が宣言し、満場一致の拍手で採択された。最後に綿貫民輔神社本庁長老の発声により聖寿の万歳を三



天下一関白神獅子舞（栃木県）

唱し、式典を閉会した。
 第二部の奉祝奏舞では、本年五月十三日に行われた「齋田点定の儀」により定められた、悠紀地方の栃木県より、関白山神社に伝わる「天下一関白神獅子舞」、主基地方の京都府より、相楽神社に伝わる「御田祭の掛け合い」が奏舞され、会場は奉祝の気運に満ち溢れ全ての行事が目出度く納められた。



例祭併せ大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀

十一月十二日神社庁神殿において例祭併せ大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀が忌部副庁長外役員支部長関係者参列のもと斎行された。

祭典奉仕者

齋主 角河和幸（庁長）

副齋主 今井昭紀（祭祀副委員長）

祭員 金築知宏（祭祀委員）

森 眞史（祭祀委員）

野上郁子（祭祀委員）

奏楽 三浦正典（邑智）

植田晃次（邑智）

典儀 牛尾 充（祭祀委員長）

遷座祭・式年祭紹介

令和元年 十月二十六日

天満宮

（遷座祭）

出雲市天神町
宮司 金本壮康



令和元年度

島根県敬神婦人会総会



十一月二十九日に出雲市民会館に於いて島根県敬神婦人会(会長 千家礼子)の総会並研修会が開催された。研修会では現在フリーアナウンサーで社☆ガール会長の河野美知さんによる講演を来賓並会員約一〇名が聴講した。

清掃奉仕



十一月五日(火)島根県神道青年協議会(会長 野上郁子)並びに島根県女子神職会(会長 田中恵子)の皆様で第九回庁舎清掃を行っていただきました。

大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283
電話 0853-53-2020

《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名
同 (選科生) 若干名
予 科(別科生) 若干名

《入学試験・内容》

- 第1次 令和2年2月20日(木)
 - 第2次 令和2年3月21日(土)
 - 第3次 令和2年4月10日(金)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

《出願手続締切》

- 第1次 令和2年2月15日(土)
- 第2次 令和2年3月16日(月)
- 第3次 令和2年4月5日(日)

庁務日誌

(令和元年10月～12月)

- 10月3日 広報委員会
- 10月6日 島根県靖國英靈慰霊大祭 於 出雲大社教祖霊社(佐草理事参列)
- 10月17日 大社國學館大祭 於 大社國學館(後藤理事参列)
- 10月19日 靖國神社御創立150年記念大祭 於 靖國神社(角河庁長参列)
- 〃 松江護國神社御鎮座80年大祭 於 松江護國神社(佐草理事参列)
- 10月19～20日 隱岐神社御創建80年式年大祭 於 隱岐神社(忌部副庁長参列)
- 10月22日 即位礼当日祭(斎主 金築参事)
- 10月24日 定例評議員会 於 本庁(角河庁長、篠田副庁長、木佐総代会長、金築参事出席)
- 10月25日 明治神宮ミュージアム内覧会 於 明治神宮ミュージアム(角河庁長出席)
- 〃 宮司辞令交付式 於 神社庁神殿(篠田副庁長出席)
- 11月6日 出雲大社神迎神事 於 稲佐の浜斎場(後藤理事参列)
- 11月7日 出雲大社神在祭 於 出雲大社(後藤理事参列)
- 11月6～7日 中国地区神社庁職員研修 於 山口県(金築参事、和田主事、宮里録事参加)
- 11月9日 天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典祝賀式典 於 皇居前広場(忌部神政連本部長、篠田副庁長外七名出席)
- 11月12日 例祭
- 〃 大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀
- 11月18日 第59回那賀支部神社関係者大会 於 浜田 鈴蘭別館(角河庁長出席)
- 11月19日 総務委員会

神職帰幽

浜田市旭町 天満宮 宮司 野田 尊 臣
令和元年十二月二十一日 享年九十歳
謹んで哀悼の意を表します。
島根県神社庁長 角 河 和 幸

- 11月21日 教化委員会
- 11月28日 神社総代会出雲部会理事会 於 神社庁
- 11月29日 島根県敬神婦人会総会 於 出雲市民会館(角河庁長出席)
- 12月4日 第64回鹿足郡神社総代会総会 於 太鼓谷稲成神社
- 12月5日 御大典奉祝全国神社関係者大会 於 明治神宮会館(角河庁長外二十名参加)
- 12月9日 正・副庁長会
- 12月10日 役員会
- 〃 身分選考委員会
- 〃 研修所企画会議
- 〃 階位検定講習会企画運営委員会
- 12月11日 広報委員会
- 12月12日 天皇陛下御即位奉祝の集い 於 ホテルニューオータニ鳥取(角河庁長出席)
- 〃 鳥取県岡村庁長懇話会代表世話人就任祝賀会 於 鳥取山田屋(角河庁長出席)
- 12月13日 神社庁研修所主任講師訓育主任研究会 於 本庁(石原主任講師、金築訓育主任出席)
- 12月27日 御用納祭

神職任免

(令和元年10月～令和2年1月)

任 免	発令月日	奉職神社名	鎮 座 地	兼本務 職名	氏 名
任	1・11・25	湯野神社	〃	本宮司	石原肇
任	1・11・20	八幡宮	〃	兼宮司	牛尾禎立
免	1・11・19	志々乃村神社	飯石郡飯南町	本宮司	山根良孝
任	1・11・1	琴弾山神社	飯石郡飯南町	〃	〃
任	1・11・1	穴見神社	雲南市掛合町	〃	〃
任	1・11・1	八重山神社	雲南市掛合町	〃	〃
任	1・11・1	天満宮	雲南市掛合町	〃	〃
任	1・11・1	多根神社	雲南市掛合町	〃	〃
任	1・11・1	星原神社	雲南市掛合町	〃	〃
任	1・11・1	由來八幡宮	飯石郡飯南町	兼宮司	春日親典
任	1・11・1	小野神社	益田市戸田町	本宮司	綾部常美
任	1・11・1	三所神社	出雲市佐田町	本祢宜	福谷一眞
任	1・11・1	伊賀多氣神社	仁多郡奥出雲町	本祢宜	中林司
任	1・11・1	安富神社	益田市安富町	本宮司	中島庸博
任	1・11・1	龜島神社	松江市宍道町	〃	〃
任	1・11・1	大森神社	松江市宍道町	兼宮司	秦崇弘
任	1・11・1	大元神社	益田市多田町	兼〃	〃
任	1・11・1	嚴島神社	益田市中須町	本祢宜	宮崎壯志
免	1・10・31	龜島神社	松江市宍道町	〃	〃
免	1・10・31	大森神社	松江市宍道町	兼宮司	秦武男
免	1・10・31	大元神社	益田市多田町	〃	〃
免	1・10・31	嚴島神社	益田市中須町	兼祢宜	宮崎昌彦
任	1・10・23	貴船神社	雲南市加茂町	本祢宜	宮川龍哉
任	1・10・16	忍原神社	大田市川合町	兼祢宜	〃
任	1・10・16	八重垣神社	松江市佐草町	本祢宜	中田武親

神社庁祭式講師並助教を委嘱

講師	牛尾充	濱田護國神社	宮司	再任
講師	今井昭紀	貴布禰神社	宮司	再任
助教	金築知宏	島根県神社庁	参事	再任
助教	森眞史	波加佐神社	権祢宜	再任
助教	野上郁子	八幡宮	宮司	再任
任期	令和元年十一月一日～令和四年十月三十一日迄			
神社庁練成行事道彦並助彦を委嘱				
道彦	中田宏記	物部神社	宮司	再任
道彦	喜和田公二	出雲大社	祢宜	再任
助彦	藤井忠美	出雲大社	権祢宜	再任
任期	令和元年十一月一日～令和四年十月三十一日迄			

任 免	発令月日	奉職神社名	鎮 座 地	兼本務 職名	氏 名
任	1・11・25	八幡宮	仁多郡奥出雲町	兼祢宜	石原肇
免	1・11・30	谷村八幡宮	飯石郡飯南町	本宮司	三東崇弘
免	1・11・30	〃	〃	本祢宜	三東敬志
任	1・12・1	〃	〃	兼宮司	倉橋清弥
任	1・12・20	比和神社	雲南市加茂町	本祢宜	山本レンセン
免	1・12・31	小野神社	益田市戸田町	本祢宜	中島正也
免	1・12・31	衣毘須神社	益田市小浜町	兼〃	〃
免	1・12・31	八幡宮	益田市飯浦町	〃	〃
任	1・12・31	稻荷神社	松江市寺町	本宮司	長谷川良睦
任	2・1・1	〃	〃	本宮司	長谷川陽子
任	2・1・1	衣毘須神社	益田市小浜町	兼宮司	青木英明
任	2・1・1	八幡宮	益田市飯浦町	〃	〃

★社☆ガール通信

『美保関、越との繋がりを探る』

社☆ガールの本拠地でもある松江市美保関の神社を『美保関と越との繋がり』をテーマに福岡県立大学教授岡本雅享先生と巡りました。

美保神社を参拝。出雲国風土記には大国主命と越の沼河比売命ヌナカハヒメノミコトの間に生まれた御穂須須美命ミホススミノミコトがあるのでこの地が美保という地名になったと記されています。しかし、御穂須須美命は美保神社の御本殿には祀られていません。美保神社の御祭神は事代主神コトシロノミコトと三穗津姫命ミホツヒメノミコト。日本書紀では三穗津姫命は国譲りの後に大国主命が高天原から娶った女神ということでも神社見解としてもミホツヒメノミコトⅡホススミノミコトではないとの事。本殿の中の末社「大后社」キサノヤシロに沼河比売命が祀られています。その



御子神御穂須須美命は何処へ。

美保神社本殿を出て、参道でもある青石畳通りを抜け歩くこと5分、美保神社の境外末社 地主社ヌシノヤは集落の裏手にひっそりと建っています。地元の人たちはこの地主社に祀られているのが御穂須須美命だと言います。(美保神社の公式見解では御祭神は事代主命、或いは御穂須須美命)

裏手の山に古墳があり、地主社のお社の下には縄文時代のストーンサークルがあると伝えられます。昔はこの社の横に保育園があり、地域の子どもたちは地主社に見守られながら育ったとか。地元の方たちが代々大切に守っているこのお社こそ、この地の「地主」Ⅱ御穂須須美命ではないか、と感じさせてくれます。



諏訪神社は美保神社から車で15分、日本海の雲津浦にあります。古老の言い伝えによると「国譲り神話で

建御名方神タケミナカタノカミがこの場所から越の国に渡り、諏訪に入って逃れた」との話もあり「先代旧事本紀」には大国主神と越の沼河比売命との子が建御名方神であると記され、「ミホススミノミコトⅡタケミナカタノカミ」という説もあります。地元の田中さんの話によると江戸時代には四十二浦巡りの参拝者が多く訪れ地域の内外から信仰を集めた神社だったとのこと。地域の諏訪信仰と、出雲と越との人の行き来から、同じように出雲と越の両方のDNAを受け継いだ御穂須須美命、建御名方神が海人たちの神として同一化していったのでしょうか。

岡本先生によると石川や富山・新潟の「越の国」には、出雲の国では美保関にしか見られない御穂須須美命が数多く祀られているとのこと。母神沼河比売命の里でも御穂須須美命が大切にされている事がわかった神社巡りでした。



簸川支部だより 福谷行眞

簸川支部では、毎年神社総代会との共催で、神社巡拝を行っています。

平成二十六年の庁報(第三二四号)でも此の神社巡拝に触れたように、テーマを持って神社等を決めています。前期は「石神」を祀る神社でしたが、今期は、出雲國風土記に記載の古社を巡ることになりました。

今年九月二十日に、先ず平田町内の神社へ参ることになりました。湖陵町を始発として大杜町、斐川町と広い範囲からお出掛け頂き、総勢三十九名の方々にご参加頂きました。

先ずは、平田町の中心部に鎮座する宇美神社に詣で、正式参拝致し、河瀬直明宮司から神社名が宇美神社と熊野神社に何度も変わりながら今に至った経緯等ユーモアを交えながら由緒沿革の話の伺いました。次に佐香神社に参詣。酒作



りの準備の始まる頃の忙しいところお邪魔しました。

次に懇親会を兼ねて昼食を共にし、次の御津神社、能呂志神社へ向いました。両社とも六社又は六所大明神と讃える御祭神でした。氏子の減少により衰退傾向にあるのは否めませんが、我々の参詣に際して境内の清掃をして頂くなど、誇りをもって護持されていることに感銘を受けました。最後の訪問地の平田本陣記念館では、島根県神社総代会会長の木佐名誉館長の歓待を受け、大変感謝致し意義深い巡拝となりました。

今後とも総代会の皆様と共に研修に励んでまいりたいと思います。



編集後記

昨年は、天皇陛下御即位に関する一連の諸儀式が滞りなく肅行され、奉祝の気運に包まれて、大変おめでたい年となった、しかし、日本各地には自然災害が頻発し、甚大な被害をもたらした。今年こそは、災害の無い平穏な良い年であって欲しい。

さて、毎年正月元旦、私の兼務神社では、地元的神楽社中による石見神楽が上演されて来た。対象は主に正月の帰省客である。そして、この時の神楽上演の収益金は、全額神社に寄付していただいている。この寄付金は、年々厳しさを増す、過疎地域の神社の護持運営に、大変有り難い浄財となっている。

しかし、同じ兼務神社でも、中山間地域の小規模神社は、危機的状況に陥っている。氏子世帯数は年々減少し、その多くはお年寄りの世帯である。神社への寄付金にも限界がある。今後の神社存続が危ぶまれていて、大きな課題となっている。

こうした中で、その対策は急を要する。地元神楽社中と連帯して、帰省客(産子)に協力を要請する事も、ひとつの方法であろう。

過疎地域の神社の護持存続を賭けて、あらゆる対策と努力を怠ってはならない。(宮)

島根県神社庁報(第三四五号)
発行日 令和二年二月一日
発行者 島根県神社庁
編集 広根県委員会
委員長 長谷川正矩
副委員長 陶山 浩正
委員 宮能 壮充
委員 江角 恵
委員 石崎 彰矩